

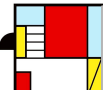
<調査発表>

2023年、ねこの飼育頭数が 900万匹を突破！

「飼い主とねこのしあわせな住環境に関する調査」

- ・ねこを飼っている際に困ったこと・悩んだこと 1位は「病気や体調不良」。経験者は 70.5%に上る。
- ・ねこの体調不良・病気防止のためには現在かけている金額より約 1.4倍かけてもいいと思っている
- ・ねこのにゃんとも幸せなくらしのためには、理想の住環境を知って、近づけることが必要と判明

株式会社オープンハウスグループ(本社 東京都千代田区、代表取締役社長 荒井正昭、以下「当社」)は、本日11月22日より開始する「ねこと飼い主のしあわせな住環境に関する取り組み」(以下「本取り組み」)に先行し、「飼い主とねこのしあわせな住環境に関する調査」を実施し、その結果を発表しました。

 調査結果サマリー

調査結果を通じ、ねこのしあわせなくらしと住環境には相関性があることがうかがえる結果となりました。飼い主は、ねこのにゃんともしあわせなくらしを実現するために必要な体調管理や住環境を整えるためには一定の出費を厭わないということが確認できました。また、その実現に近づくためにも、そもそも理想の住環境についての知識を得たいということがわかりました。

- ・ねこを飼っている際に困ったこと・悩んだこと 1位は「病気や体調不良」(43.7%)。具体的な悩みにおいても1位は「病気にならないか心配」(46.9%)。また、ねこの体調や気持ちが分かりにくいという悩みが上位にランクイン
- ・ねこのために家のDIYやインテリアの変更のみならず引越しをした・引越しをするという人も一定数あり
- ・70.5%の人が飼っているねこが体調不良になった経験があり、9.9%が体調不良に気が付きにくいと回答
- ・ねこの体調不良の対応として「住環境を整える」が4位に。また、ねこの体調不良時に欲しいサービス1位は、「ストレスのたまらない住宅環境づくり」と住環境に関する項目が上位に
- ・ねこの体調不良・病気防止のためには現在より約1.4倍かけてもいいと思っている。5万円以上も受容できるという人が6.1%も。ねこの体調不良経験者の方が1.3倍の金額をかけている
- ・ねこにとっての「理想の暮らし」では日当たりや空間デザインなど家選びや設計の段階で重要な項目も上位にランクイン

< 本件に関するメディア関係者様からのお問い合わせ >

株式会社オープンハウスグループ 広報 PRグループ(山岡)
TEL(部直通): 03-6213-0783 / MAIL: pr@openhouse-group.com

 調査実施の背景

2023年、ねこの飼育頭数が 900万匹を突破 「飼い主とねこのしあわせな住環境に関する取り組み」に先行して調査を実施

一般社団法人ペットフード協会の「全国犬猫飼育実態調査」によると、2014年に犬とねこの飼育頭数が逆転、その後その差は拡大し2023年には、犬の飼育頭数は約 6,844千頭、ねこの飼育頭数は約 9,069千頭となりました。また、ねこについては環境省から室内飼育が推奨されています。

戸建ての土地の仕入れから企画設計・建築、販売まで製販一体で行い、首都圏で多くの物件を供給しており、柔軟な設計をご提案できる戸建て注文住宅や、オーダーシステムで注文住宅の様な柔軟な変更ができるマンションを提供している当社として、飼い主とねこにとって幸せな住まいとくらしを応援できると考え、本日 11月22日より「飼い主とねこのしあわせな住環境に関する取り組み」を開始します。その開始に先行し、本調査を実施いたしました。調査結果は本取り組み及びねこを飼育されているお客様へのご提案や、将来の商品開発にも活かしてまいります。

 調査概要(目次)

- Q1. ねこを飼っている際に困ったこと・悩んだこと
- Q2. ねこを飼っている際の具体的な悩み
- Q3. 悩みに対して行っていること
- Q4. ねこの体調不良経験
- Q5. ねこの体調不良に気が付くか
- Q6. ねこの体調不良時に取った行動
- Q7. ねこの体調不良の判断方法
- Q8. ねこの体調不良時の参考情報源
- Q9. ねこの体調不良時の対応_理想と現実
- Q10. ねこの体調不良時に理想の対応が取れなかった理由
- Q11. ねこの体調不良時に欲しいサービス
- Q12. 有料サービスの受容性把握
- Q13. ねこの体調不良・病気防止への投資金額
- Q14. ねこにとっての理想的な暮らしとは

<調査概要>

調査名: 飼い主とねこのしあわせな住環境に関する調査

調査企業: 株式会社オープンハウスグループ

調査期間: 2024年9月19日～2024年9月30日 ※本調査期間

調査対象者: 猫を室内で飼育している かつ 自分が主にお世話をしている 20-69歳の男女
※関連業種(不動産業、ペットショップ・ペット関連、マスコミ関連業、放送業、調査・広告代理業)は除外

エリア: 全国

調査方法: インターネット調査(マクロミル)

有効回答数: 530名

調査対象者割り付け: 男女 20-69歳を10歳刻みで以下のように割付

1. 持ち家(一戸建て): 20ss×10セル
2. 持ち家(マンション等集合住宅): 20ss×10セル
3. 賃貸: 10ss×10セル

Q1. ねこを飼っている際に困ったこと・悩んだこと

1位は「病気や体調不良」43.7%。1位と予想された「自宅のキズや汚れ」は 39.2%で2位に5位に「行動や気持ちへの理解」がランクイン

ねこを飼っている人に困ったことや悩んだことをきいたところ、81.1%の人が何かしらに悩んでいるということがわかりました。1位は2位に4.7ポイントの差をつけ「病気や体調不良」となりました。ねこは壁や物を落としたりなどキズや汚れが気になるという話をよく聞くため、2位の「自宅のキズや汚れ」(39.2%)が1位になる可能性を考えておりましたが、実際に困ったり悩んだりという質問になると、体調や病気のほうが上回るようです。また、ねこは「しつけができない!」という前評判通り、25.3%で4位にしつけがランクインするとともに、5位に「行動や気持ちへの理解」が入り、もっとねこを理解したいという飼い主の気持ちが反映された結果となりました。

<主なランキング>

1位:「病気や体調不良」43.7%
2位:「自宅のキズや汚れ」39.2%

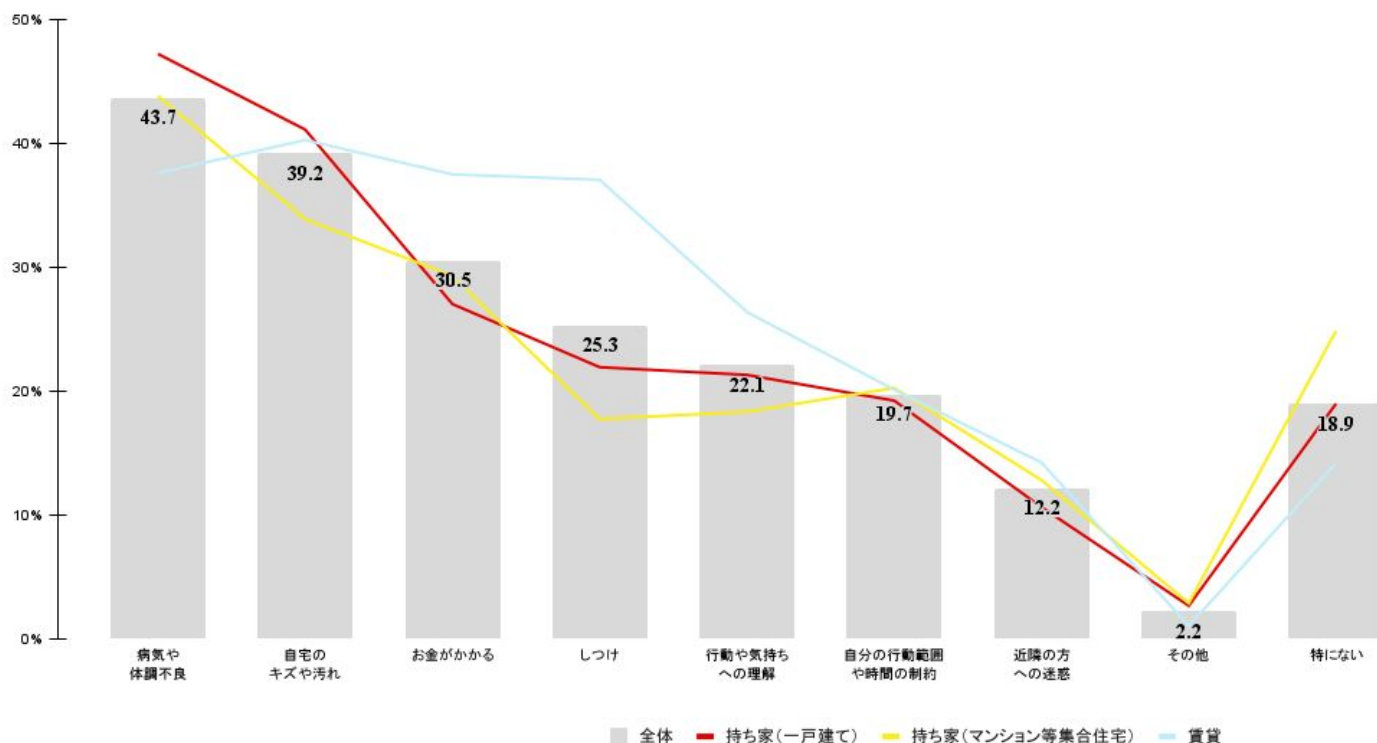
<ポイント>

- ・81.1%の人が何かしらねこの飼育に関して困ったり悩んだりしている
- ・1位と予想された「自宅のキズや汚れ」を抑え、「病気や体調不良」が 4.7ポイントの差をつけ、1位という結果に
- ・5位に「行動や気持ちへの理解」(22.1%)が入り、5人に一人はよりねこのことを理解をしたいと考えていることが明らかに

あなたが猫を飼う中で、悩んだり、困っていることはありますか。

あてはまるものをすべてお答えください。

(N=530 MA)



Q2. ねこを飼っている際の具体的な悩み

1位は「病気にならないか心配」で 46.9%。2位と8.7ポイント差
ねこの体調や気持ちに関する悩みが上位にランクイン

Q1で悩んだり、困っていると回答した人を対象に、具体的な悩みを聞いてみたところ、1位は「病気にならないか心配」(46.9%)と約半数の人が病気になることを心配していることが分かりました。

またねこの体調や気持ちが分かりにくいという悩みが上位にランクインしました。飼い主としてはねこを何事もなくそしてしあわせにしてあげたいが、不安要素や満足度が分かりにくく、ねこの理解に苦心していることが明らかになりました。

<主なランキング>

1位:「病気にならないか心配」46.9%

<ポイント>

・1位は2位と8.7ポイントの差をつけて「病気にならないか心配」

・ねこの体調や気持ちの分かりにくいという悩みが上位にランクイン

3位「ネコの気持ち・ストレスなどが分かりにくい」(31.9%)

5位「病気や体調不良に気がつきにくい」(31.2%)

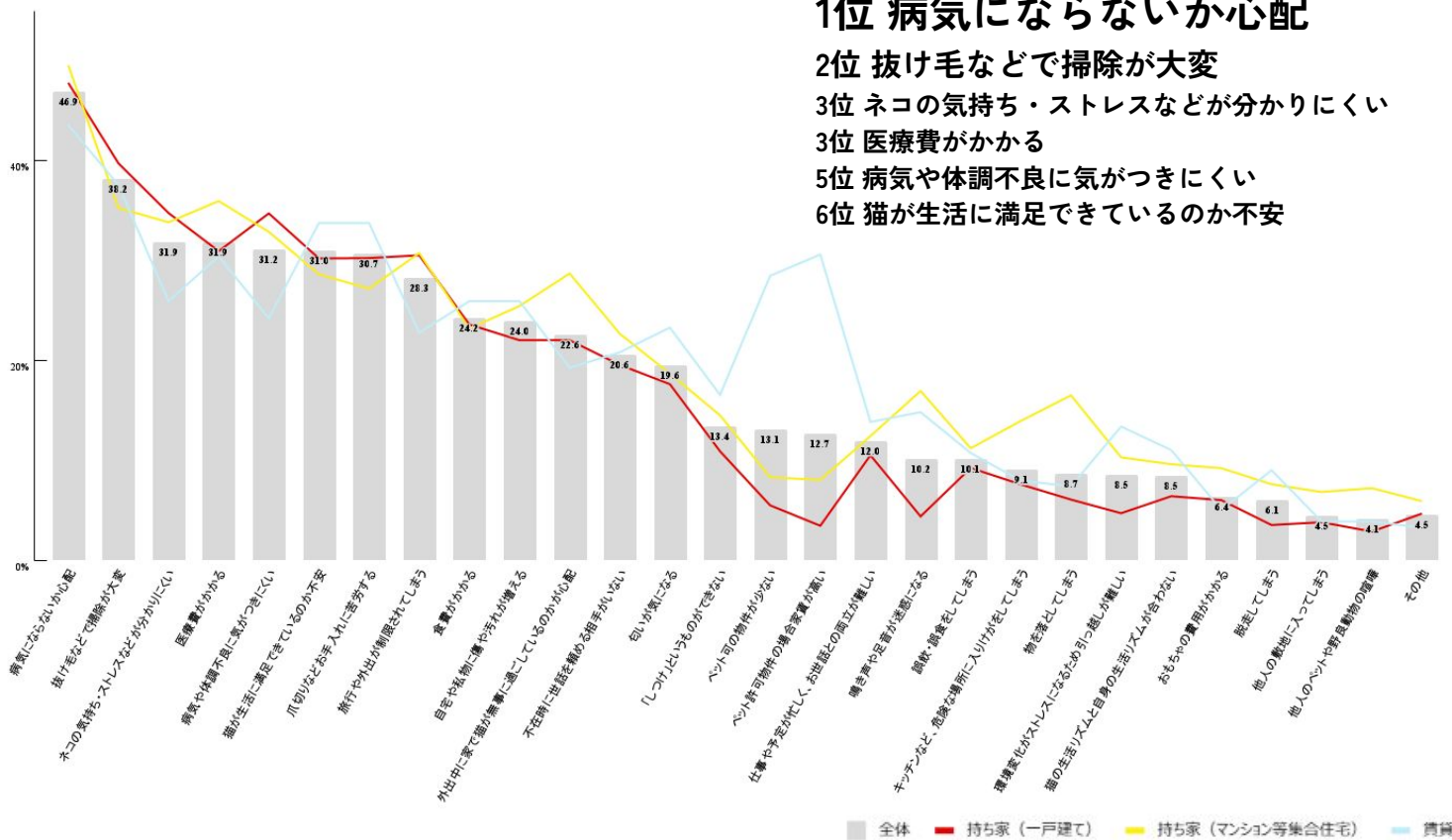
6位「猫が生活に満足できているのか不安」(31.0%)

・住居の種別では、賃貸の人は、そもそもねこが飼える物件の少なさや、あったとしても賃貸が高い、キズか付く、という住宅に関する悩みが戸建てやマンションより高いことが判明

Q1で、悩んだり、困っていると答えになったことについてお伺いします。

具体的にどのようなことに悩んでいるのか教えてください。

(N=420、MA)



1位 病気にならないか心配

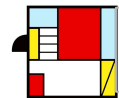
2位 抜け毛などで掃除が大変

3位 ネコの気持ち・ストレスなどが分かりにくい

3位 医療費がかかる

5位 病気や体調不良に気がつきにくい

6位 猫が生活に満足できているのか不安



Q3. 悩みに対して行っていること

遠隔でねこの健康管理ができるグッズが TOP10に2項目ランクイン
ねこのためにDIYやインテリアを変更したり、家や部屋を引っ越したという人も！

上位を占めたのは掃除やケアに関する項目ではあったものの、外出中でも遠隔でねこの管理ができるグッズが 2項目TOP10入り。

注目すべきは、家に関する項目で、ねこのためにインテリアを変えたり、傷つきにくい床を選ぶだけでなく、DIYを行うもしくは行う人の割合が12.7%もあり、さらに、ねこのために引っ越した、もしくは引っ越す予定という人も予想以上に多い結果となりました。

<ポイント>

・共働き世代の増加を反映しているのか、外出中でも遠隔でねこの健康管理ができるグッズが TOP10に2項目ランクイン。

9位:「見守りカメラを購入した」17.1%

10位:「自動給水・給餌機を購入した」17.0%

・ねこのためにDIYやインテリアの変更、引越しをした人も！

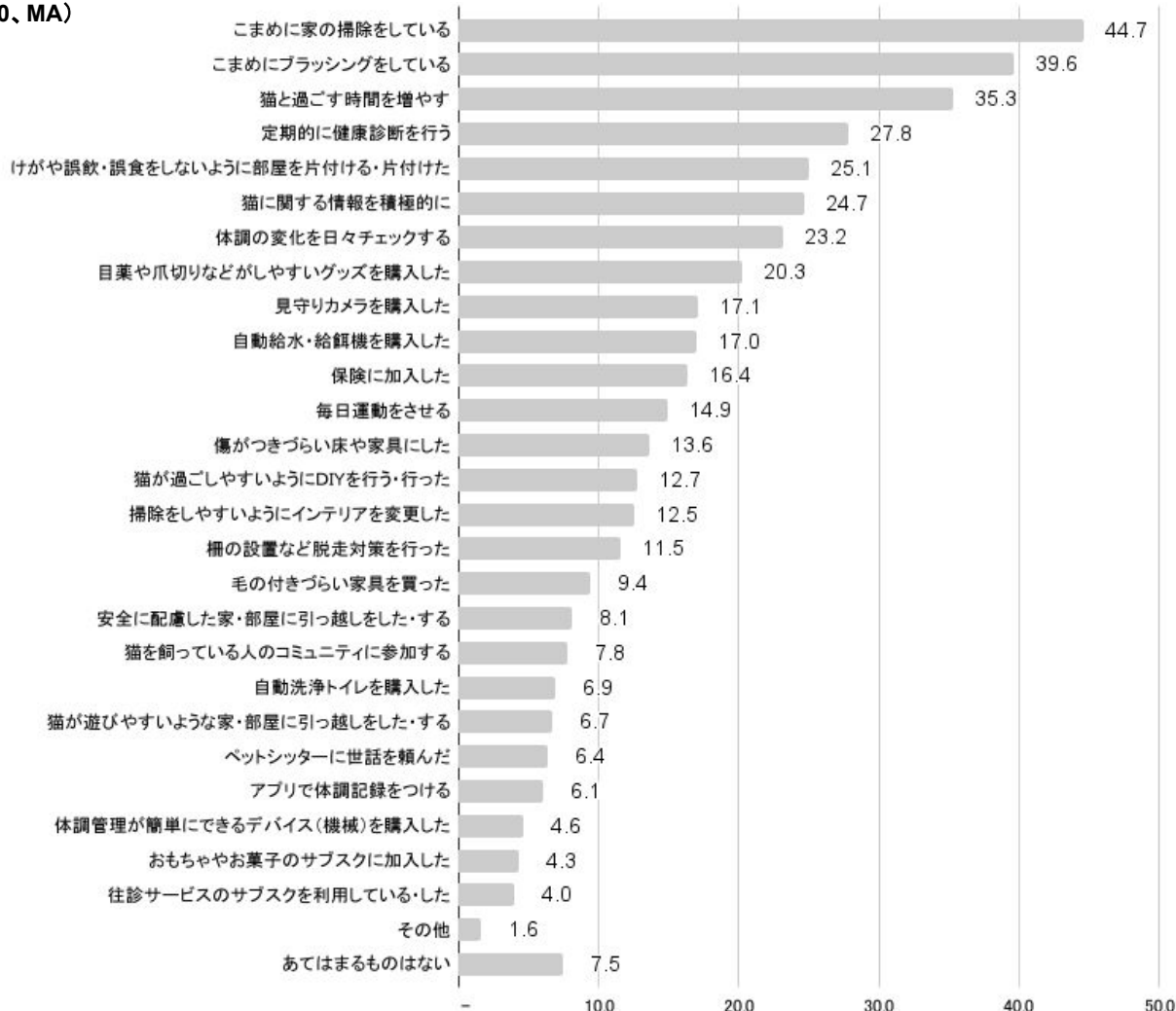
14位:「猫が過ごしやすいようDIYを行う・行った」12.7%

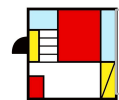
18位:「安全に配慮した家・部屋に引っ越しをした・する」8.1%

21位:「猫が遊びやすいような家・部屋に引っ越しをした・する」6.7%

あなたが抱える悩みや困りごとに対して、行っていることを全てお選びください。

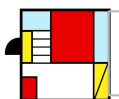
(N=420、MA)





Q4. ねこの体調不良経験

70.5%の人が、飼っているねこが体調不良になった経験があると回答



Q5. ねこの体調不良に気が付くか

9.9%が体調不良に気が付きにくいと回答

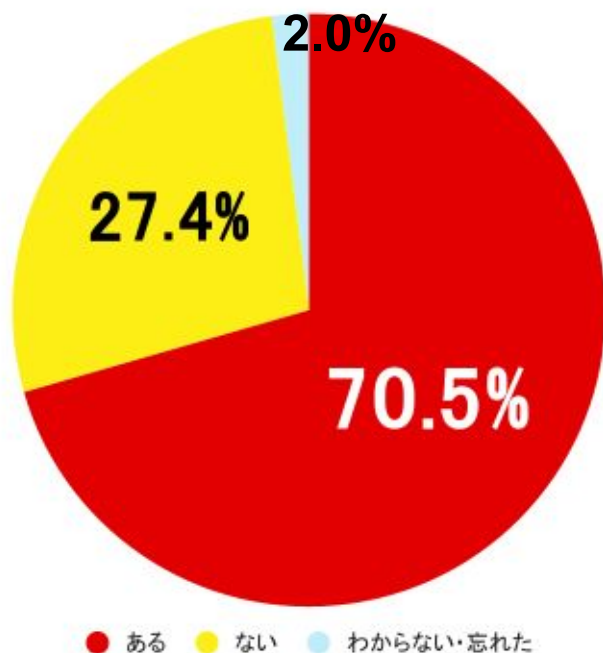
飼い主の抱える悩みとして、ねこの体調不良や病気に関する選択肢が上位に来る中で、実際にねこが体調不良になった経験がある飼い主はなんと 70.5%にものぼりました。

さらに、その体調不良に気が付くことができているかきいたところ、9.9%が体調不良に気が付きにくいと回答。また 1人暮らしになるとその割合は大幅に上がり、17.1%が気が付きにくいと回答しました。ねこのお留守番時間が増えることが理由とかがえると、今回の調査では項目別にはとっていないものの、共働き世代でもこの割合は上がる可能性が伺えます。

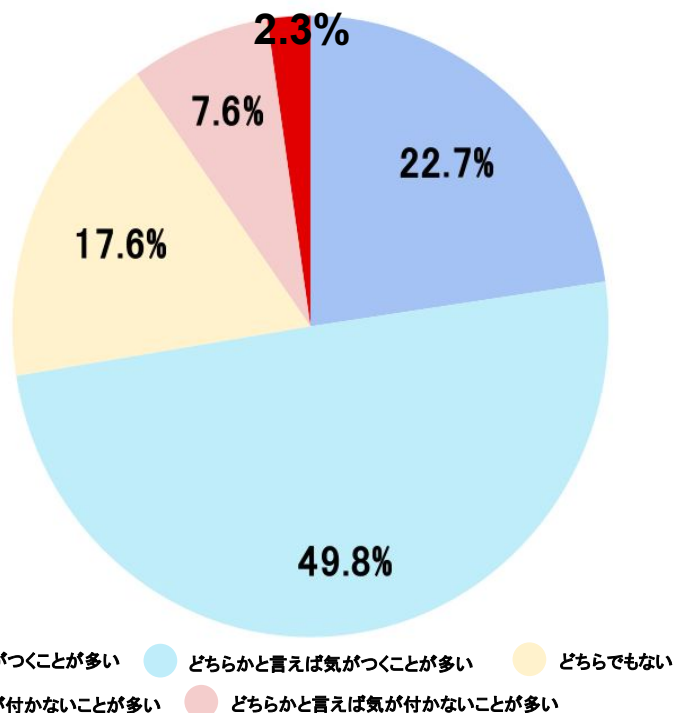
<ポイント>

- ・「気が付くことが多い」「どちらかといえば気が付くことが多い」を合わせ、72.5%の人がねこが体調不良の際に気が付くと回答。
- ・一方で、約10人に1人(9.9%)が気が付きにくいと回答
「気が付かないことが多い」(2.3%)
「どちらかと言えば気が付かないことが多い」(7.6%)
- ・世帯構成別にみると、気が付きにくい割合は1人暮らしが最多(※グラフ外の集計)
「気が付かないことが多い」(1.7%)
「どちらかと言えば気が付かないことが多い」(15.4%)

あなたは、ご自身の飼っている猫が体調不良になった経験がありますか。
あてはまるものを教えてください。
(N=530、SA)

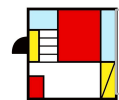


ご自身の飼っている猫の体調が悪い時、あなたは体調不良に気が付くことができますか。
最もあてはまるものをひとつだけお答えください。
(N=530、SA)



● ある ● ない ● わからない・忘れた

● 気がつくことが多い ● どちらかと言えば気がつくことが多い ● どちらでもない
● 気が付かないことが多い ● どちらかと言えば気が付かないことが多い



Q6. ねこの体調不良時に取った行動

「動物病院に連れて行った」(80.9%)が2位と50.9ポイント差を付けて 1位
一方で「自宅で様子を見た」が 27.5%でランクイン

飼っているねこが体調不良になったときに、どのような行動をとったのかを聞いたところ、動物病院に行ったが 50.9ポイント差を付けて1位でした。一方で、2位から4位の差が小さい中で「自宅で様子を見た」が 27.5%で4位にランクイン。気が付くという認知の差もあると思いますが、体調不良だとわかっているにもかかわらず 4人に1人以上が自宅で様子を見るということが判明しました。安心するためにも自宅で様子見をしても大丈夫かが分かることも飼い主の安心につながることが伺えます。

<主なランキング>

- 1位:「動物病院に連れて行った」80.9%
- 2位:「ペット系情報サイトで調べた」30.0%
- 3位:「動物病院に電話して相談した」27.7%
- 4位:「自宅で様子を見た」27.5%

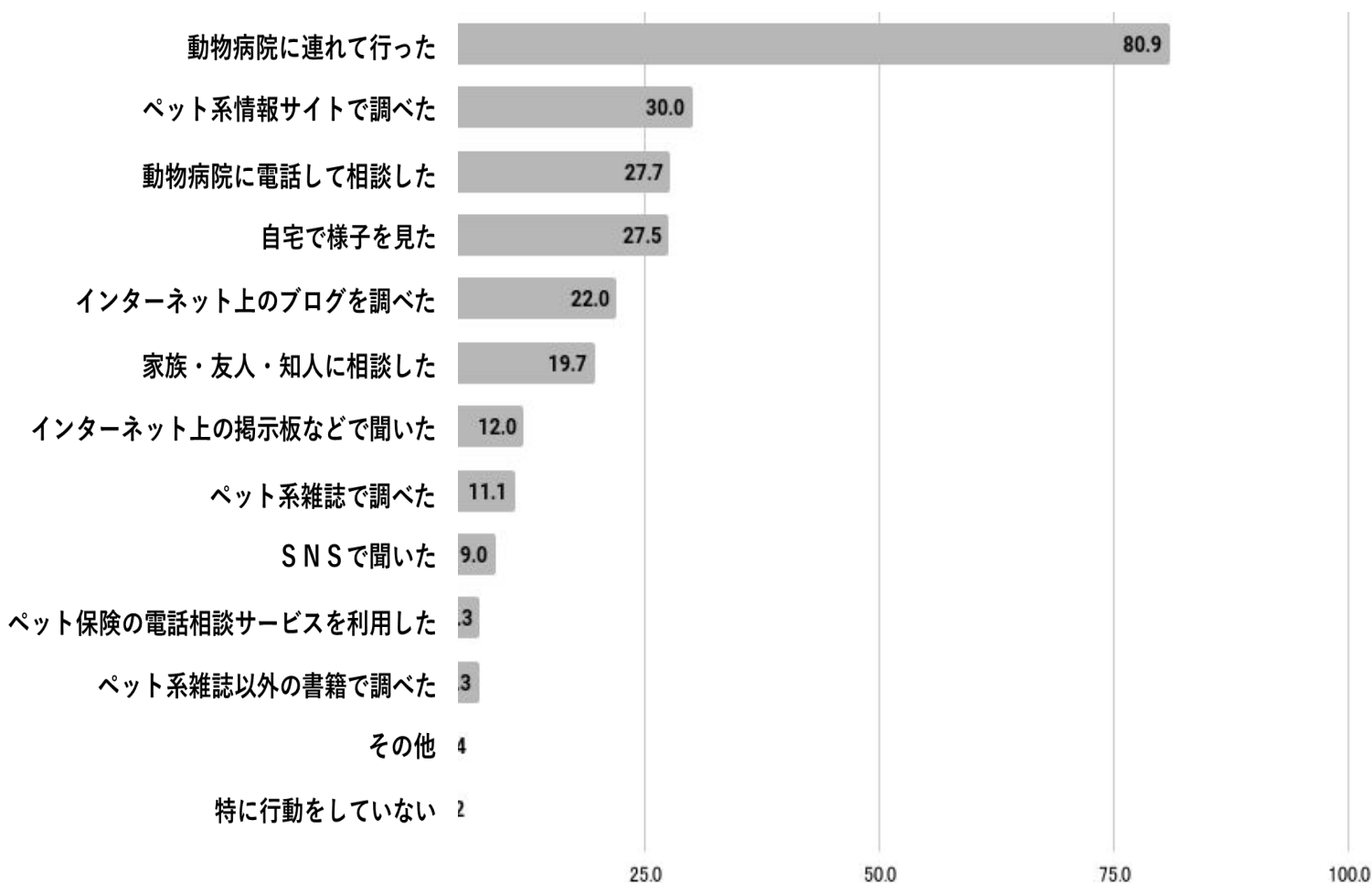
<ポイント>

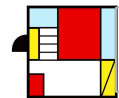
- ・動物病院に連れて行ったが大差を付けて 1位。2位と50.9ポイント差
- ・一方で、4位に「自宅で様子を見た」が 27.5%でランクイン

飼っている猫が体調不良になったときに、どのような行動をとったのか教えてください。

あてはまるものをすべてお答えください。

(N=372、MA)





Q7. ねこの体調不良の判断方法

ほとんどの回答が実際にわかりやすい症状が出たことで体調不良と判断している
1位は「食欲がない」で 2位と15.6ポイント差

1位は「食欲がない」44.7%で2位とは15.6ポイント差をつけました。3位の回答を含め、TOP10のうちほとんどの回答がはっきりとした症状がでてから体調不良と判断したという結果に。一方で 5位「見つかりにくい場所で休みたがる」(19.4%)、9位「表情が普段より乏しい」(14.1%)など普段の様子をよく見ているからこそわかる違いから体調不良と判断できたという飼い主も一定数いました。

痛みを隠しがちなねこだからこそ、何も使わずに体調不良を判断するには、普段からコミュニケーションをし、しっかり観察し些細な違いに気が付くことが重要であることが判明しました。

<主なランキング>

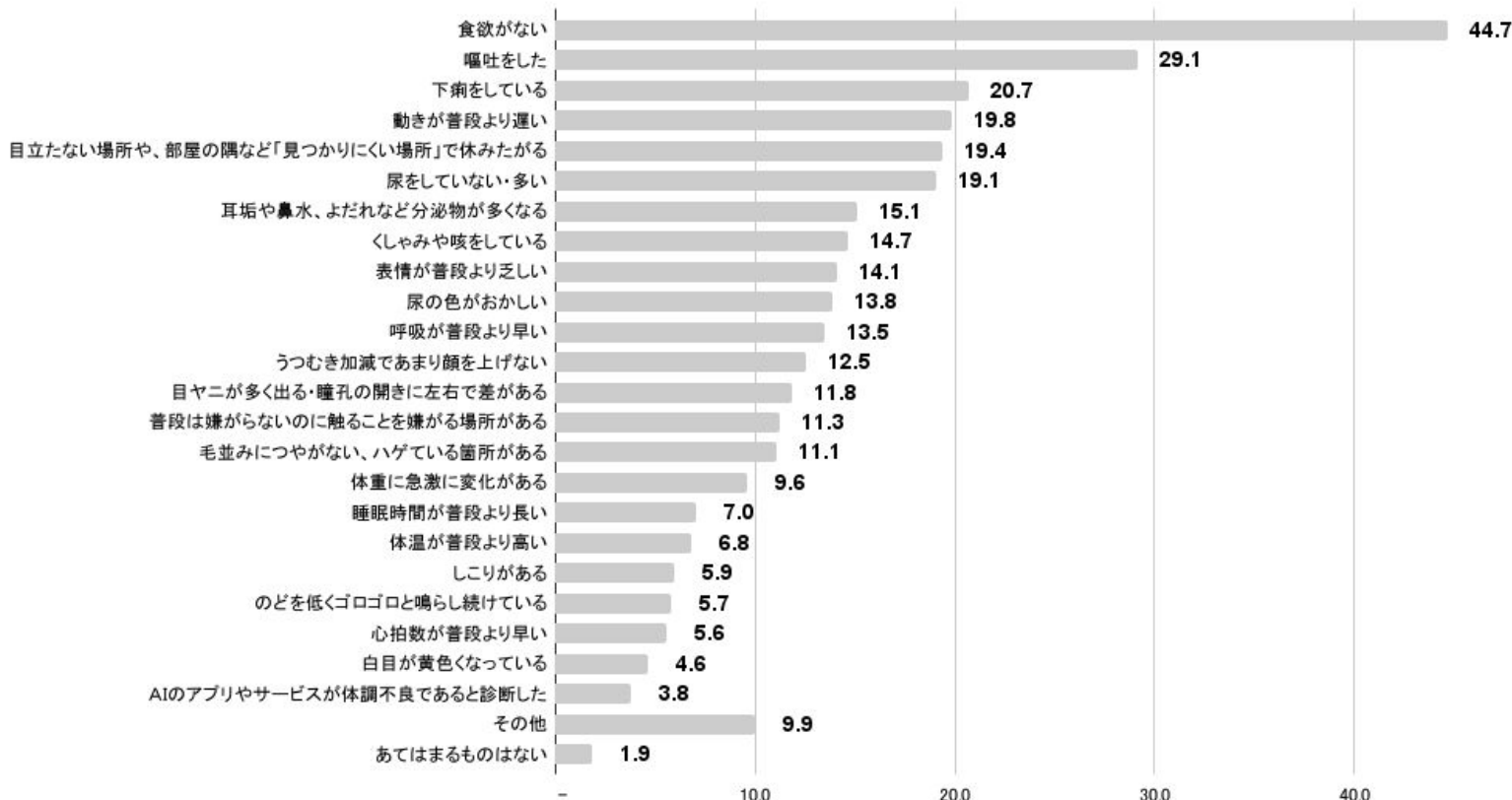
- 1位:「食欲がない」44.7%
- 2位:「嘔吐をした」29.1%
- 3位:「下痢をしている」20.7%

<ポイント>

- ・TOP3はすべて、あきらかな症状が出てから判断したという回答がしめた。
- ・一方でTOP10の中にも表情の違いや居場所の違いで体調不良を判断できている飼い主も。
5位:「見つかりにくい場所で休みたがる」19.4%
9位:「表情が普段より乏しい」14.1%

あなたの飼っている猫が体調不良になったときに、どのように「体調不良である」と判断しましたか。あてはまるものをすべてお答えください。

(N=372、MA)



Q8. ねこの体調不良時の参考情報源

TOP5を見るとプロの情報源が多く、動物病院からの情報が 1位と3位にランクイン
20代が他の年代に比べて、Web・SNSからより多くの情報源を参考としていることが判明

ランキングTOP5には1位「動物病院の先生の話」(57.6%)、2位「ペットの情報サイト」(45.9%)、4位「動物病院のホームページ」(33.1%)と専門家が情報源としてランクイン。より正確な情報をもとに判断したいというニーズが浮き彫りになりました。また年代別にみると20代はまんべんなく多くの情報を集めて判断していることが分かります。また特にSNSではYouTubeが突出して高く全体で3位の動物病院のホームページよりはと回答した人が多く、Xも同じくらい参考に使っているという結果になりました。

SNSに関しては実際の飼い主の経験談はもちろん、最近是有識者がアカウントを持って配信していることも多く、正確な情報源として参考に使っている可能性が伺えます。

<主なランキング>

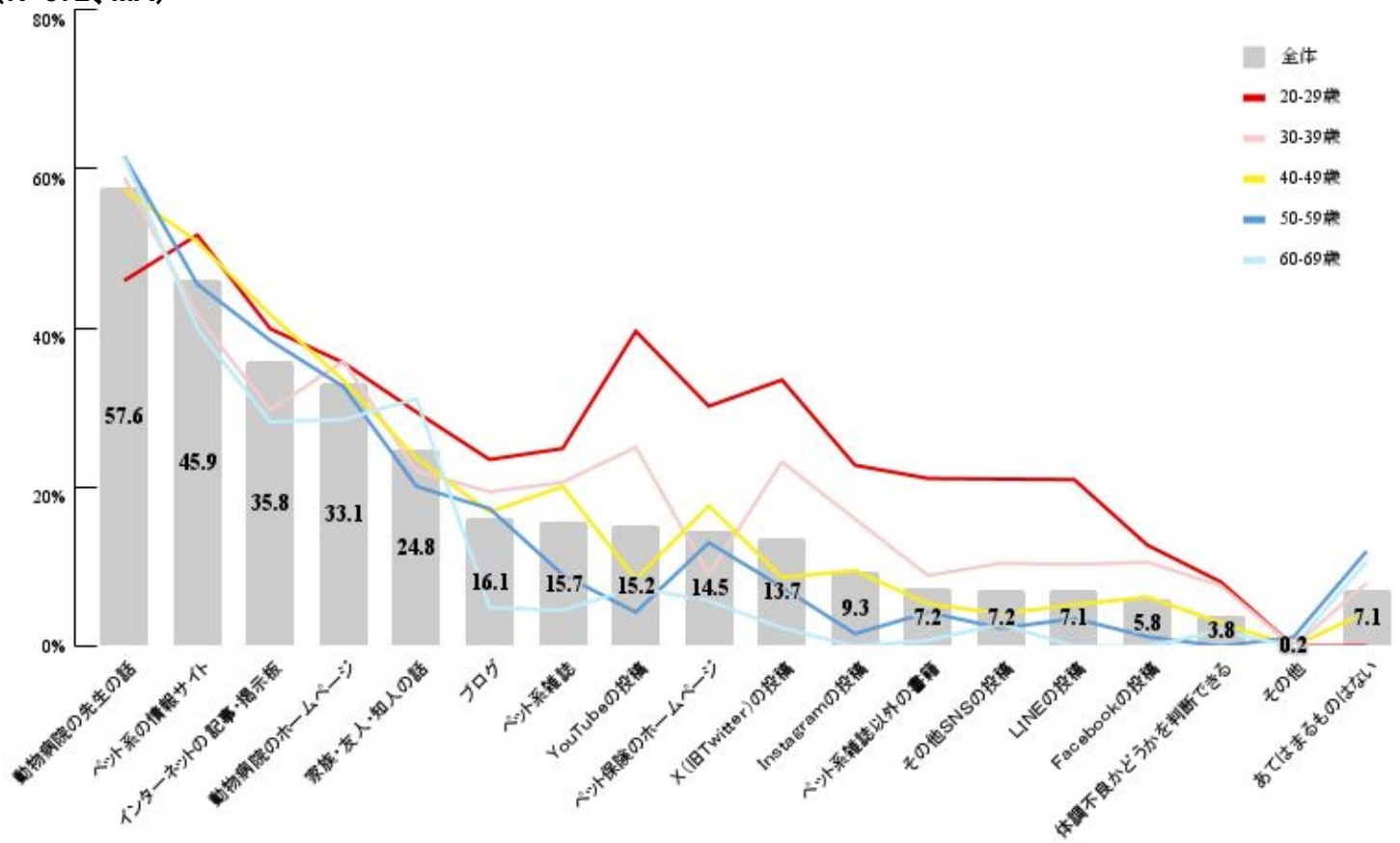
- 1位:「動物病院の先生の話」57.6%
- 2位:「ペットの情報サイト」45.9%
- 3位:「インターネットの記事・掲示板」35.8%
- 4位:「動物病院のホームページ」33.1%

<ポイント>

- ・TOP5のうち3件は専門家の情報となり、より正確な情報を求めていることは明らかに。
- ・年代ギャップでは20代が他の年代に比べて幅広く情報を集めていることがわかり特に YouTubeが他の年代と比べて突出して高い結果となりました。※()内は平均との差
- 1位:「YouTubeの投稿」39.6%(+24.4pt)
- 2位:「X(旧Twitter)の投稿」33.4%(+19.8pt)

飼っている猫が体調不良になった時にどのような情報を参考にしていますか。
あてはまるものをすべてお選びください。

(N=372、MA)



Q10. ねこの体調不良時に理想の対応が取れなかった理由

理想の対応を叶えられない背景には時間の無さとお金がかかること
ねこの気持ちが分からないという悩みが影響したか知識不足が 3位に

体調不良の際の行動として、「理想に思うが実際にはできていないこと」があると回答した人にその理由をきいたところ、1位は「時間がないから」(36.8%)2位「お金がかかるから」であり、理想の対応を叶えられない背景には時間の無さとお金がかかるということが原因と判明しました。

その背景には、共働きや1人暮らしだとなかなか病院などに連れて行けないという現状があるのではないか。また、動物病院もいくらかかるかわからないと、自分で調べて判断し、自宅で様子を見るなど、本当はやりたいけどもつとできるのに、という思いが背景にあるのではないかと推察できます。

また、3位は「猫に関する知識が不足しているから」(26.0%)が入り、これは、他の設問ででている、ねこの気持ちや体調不良が「分からない」という飼い主の悩みが影響していると考えられます。

<主なランキング>

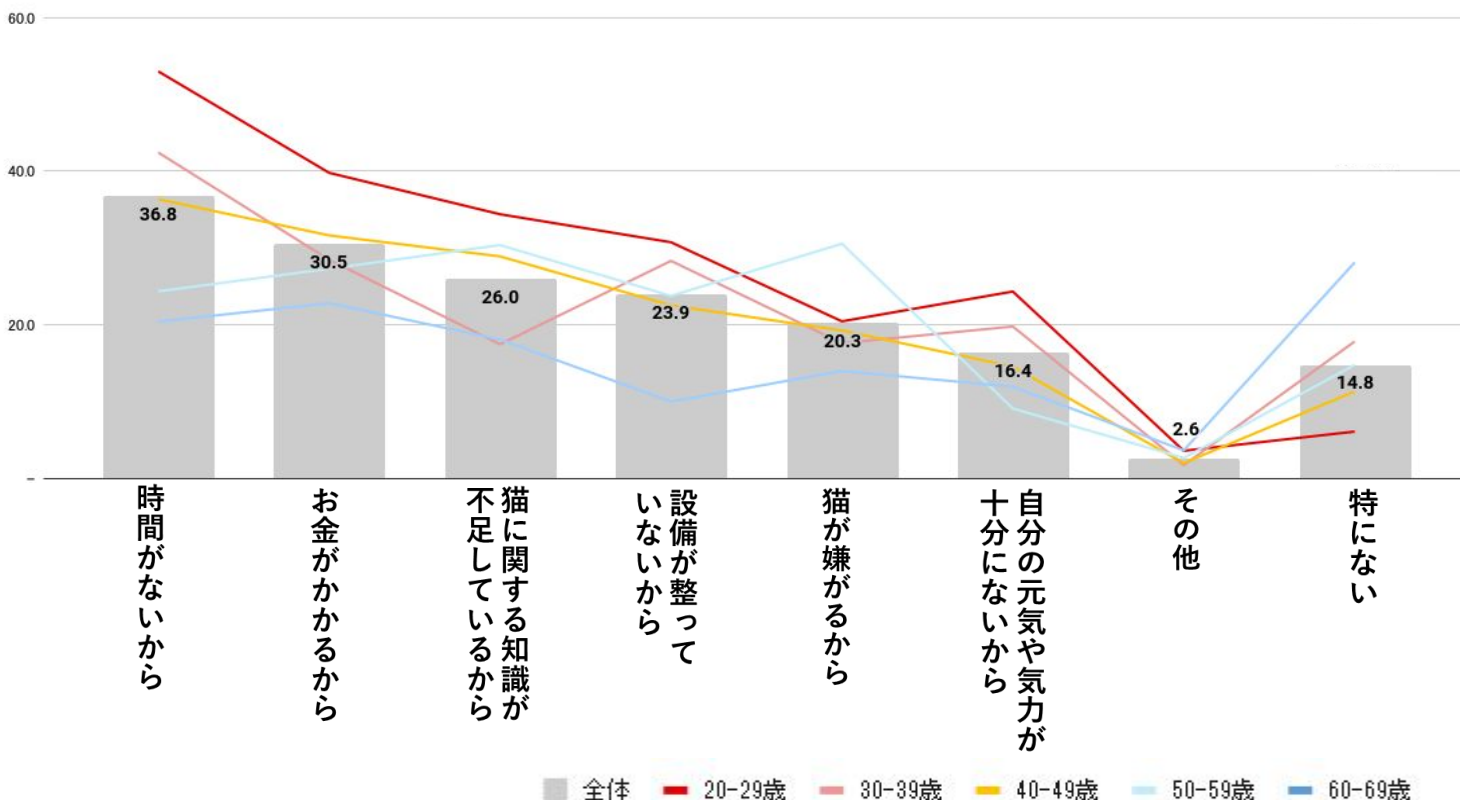
- 1位:「時間がないから」36.8%
- 2位:「お金がかかるから」30.5%
- 3位:「猫に関する知識が不足しているから」26.0%

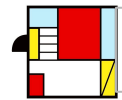
<ポイント>

- ・理想を叶えられない背景には時間の無さとお金。背景には現代の世帯構成や働き方がある可能性
- ・3位の知識不足に関してはねこの気持ちや体調不良が「分からない」という飼い主の悩みが影響か

猫が体調不良の際の行動として、「理想に思うが実際にはできていないこと」があるとお答えになった方にお伺いします。実際に理想とする行動ができていないのは、なぜか理由をお答えください。

(N=411、MA)





Q12.有料サービスの受容性把握

**猫の体調不良や病気について、簡単に把握・対処できるのであれば 93.5%の人が利用したい
有料でも利用したい人が 40.1%にのぼる**

体調不良や病気について、簡単に把握・対処できる手段があるとしたら利用したいかどうかきいたところ、93.5%の人が利用したいと回答。有料であっても40.1%のひとが利用したいという結果になりました。また年代別に見て、有料であっても利用したいと応えた人の割合は、20代と30代が他の年代に大きな差をつけてに高いことが判明しました。

サービスの内容やどの程度把握・対処できるかによって異なるとは思いますが、理想の状態に近づくのであれば、飼い主が喜んでサービスを利用する可能性が示唆されました。

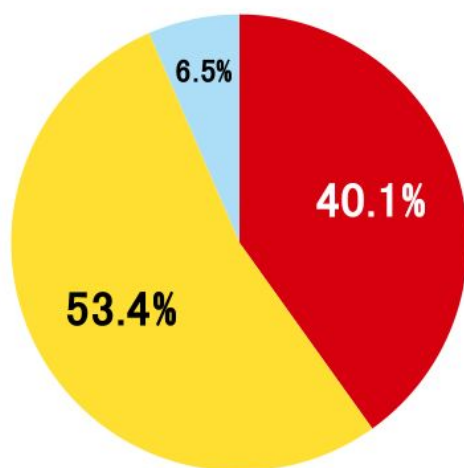
<ポイント>

- ・猫の体調不良や病気について、簡単に把握・対処できるのであれば利用したいひとが 93.5%。
- ・有料であっても40.1%のひとが利用したいという結果に。
- ・特に20代、30代が他の年代に比べて、有料でも利用したいという声が高かった。

あなたは、ご自身の飼っている猫の体調不良や病気について、簡単に把握・対処できる手段があるとしたら利用したいですか。あなたご自身のお気持ちに最も近いものをどれか1つだけお選びください。

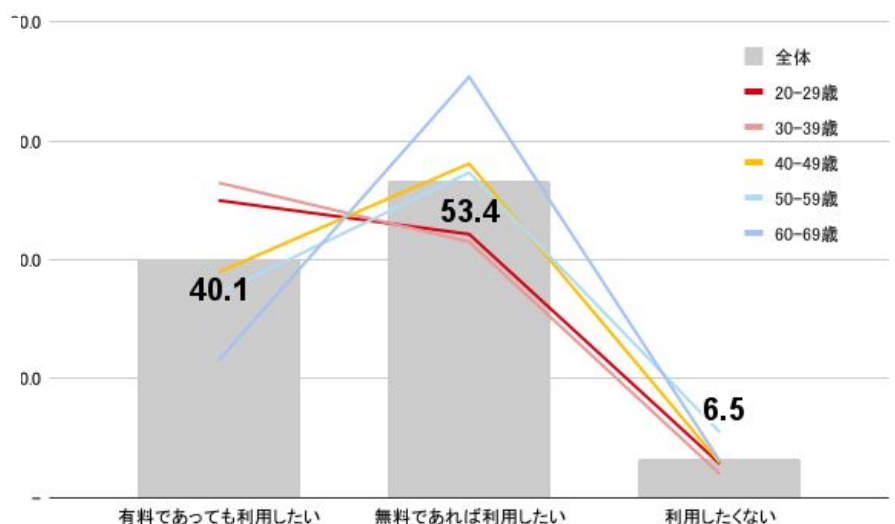
(N=530、SA)

全体



● 有料であっても利用したい ● 無料であれば利用したい ● 利用したくない

年齢別



Q13. 猫の体調不良・病気防止への投資金額

体調不良・病気防止にかけている平均月額が 9,975円、許容できるのは 13,842円と1.4倍防ぐためであれば 5万円以上も許容できるというひとが 6.1%も

飼っているねこの病気や体調不良を防ぐため 1か月にいくらお金を使っているかきいたところ、平均月額が 9,975円でした。また、許容できるのは 13,842円と1.4倍に跳ね上がりました。また、ねこの体調不良経験の有無で比較すると、病気や体調不良経験のある人のほうが、現在かけている金額では 10,622円(+2,781円)、許容できる金額が 14,849円(+3,701円)と1.3倍以上になることが判明しました。さらに、月に 5万円以上許容できるというひとが 6.1%と予想を大きく上回りました。

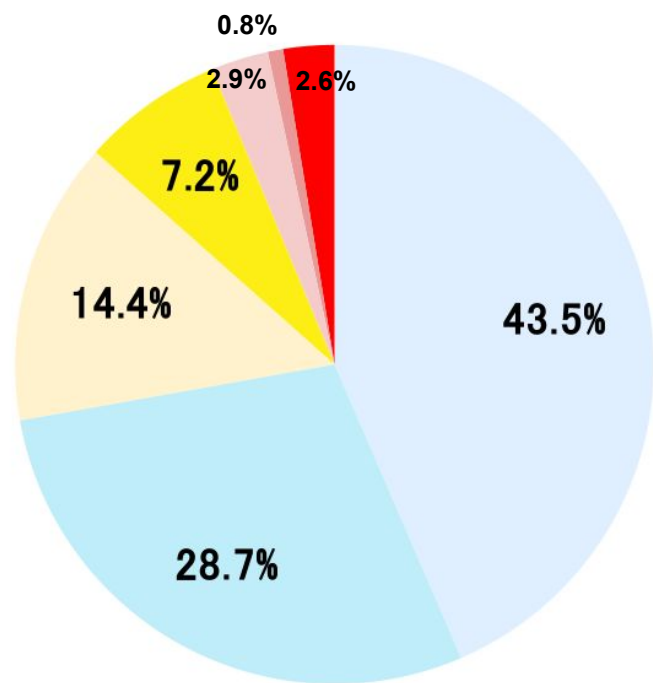
Q12の結果と照らし合わせても、お金を使って、ねこの体調不良・病気が防止できるのであれば、なんとかしたいという飼い主の切実な心理が明らかとなりました。

<ポイント>

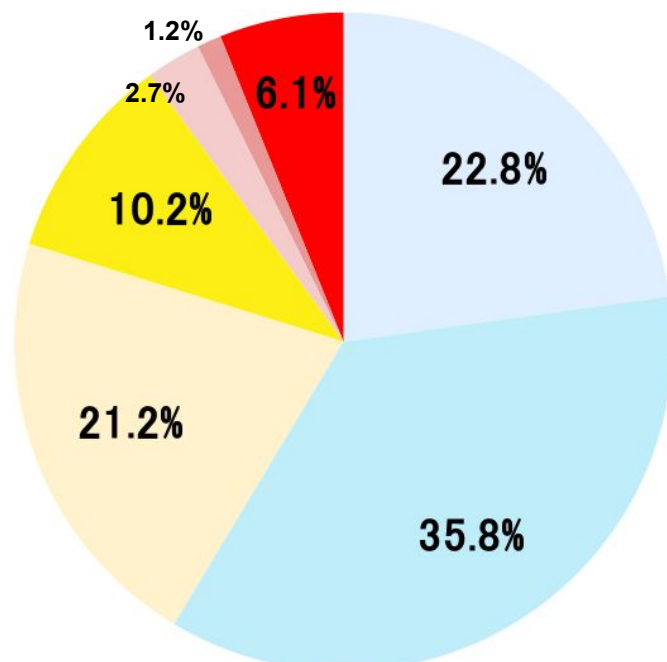
- ・実際にかけている金額より、体調不良を防げるのであれば、約 4,000円までは多く払っていいと思っている。
 実際にかけている金額9,975円
 許容できる金額13,842円
- ・5万円以上かけていいという人の割合が 6.1%と予想以上に高い結果に
- ・ねこの体調不良経験の有無で比較すると経験がある人のほうが、現在かけている金額が 2,781円、許容金額が 3,701円と、1.3倍以上高くなる傾向に

あなたは飼っている猫の病気や体調不良を防ぐために、1ヶ月にどのくらいお金をかけていますか。また、いくらまでならお金をかけてもよいと思うか、許容できる金額もあわせて教えてください。
 (N=530、SA)

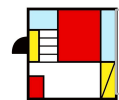
実際にかけている金額



許容できる金額



● 5千円未満 ● 5千円～1万円未満 ● 1万円～2万円未満 ● 2万円～3万円未満
 ● 3万円～4万円未満 ● 4万円～5万円未満 ● 5万円以上



Q14. 猫の理想の暮らし

1位は「ごはんが十分に与えられること」 58.7%

日当たりや空間デザインなど家選びや設計の段階で重要な項目も上位にランクイン

猫にとっての「理想の暮らし」がどのようなものだと思うか聞いたところ、TOP3は僅差だったものの、日当たりや空間デザインなど家選びや設計の段階で重要な項目も上位にランクインしました。ねこを飼ううえでの心配の1位である「体調不良」と体調不良に対処のために欲しいサービスの1位である「ストレスのない住環境づくり」からかけ合わせると、理想の暮らしのためにもねこの住環境の整備が重要なことが分かりました。

<主なランキング>

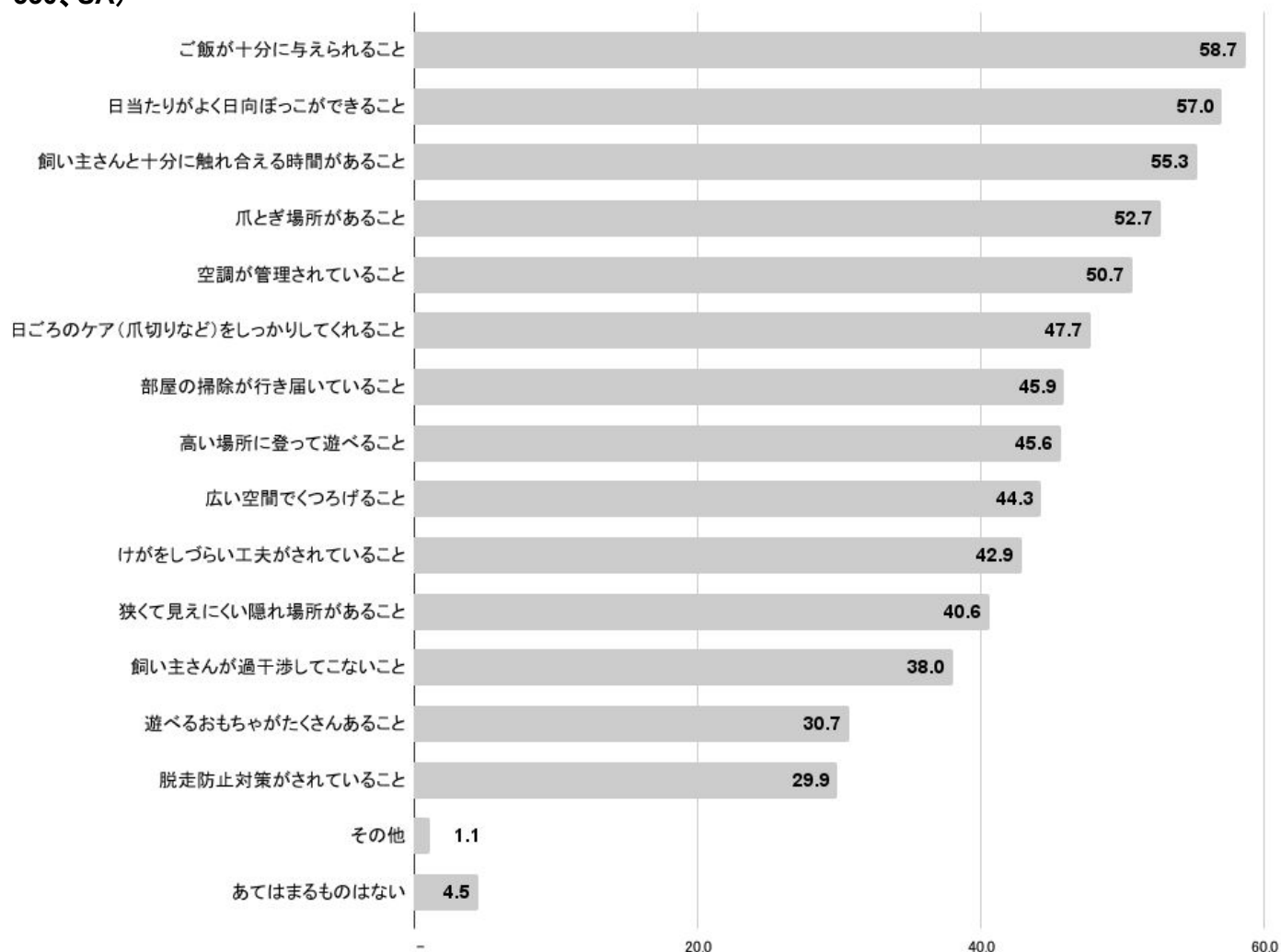
- 1位:「ごはんが十分に与えられること」 58.7%
- 2位:「日当たりが良く日向ぼっこができること」 57.0%
- 3位:「飼い主さんと十分に触れ合える時間があること」 55.3%

<ポイント>

- ・家選びの段階で重要な項目も上位にランクイン
- 2位:「日当たりが良く日向ぼっこができること」57.0%
- 8位:「高い場所に乗って遊べること」45.6%
- その他、広い空間、けがをしづらい工夫、隠れ場所、など

猫にとっての「理想の暮らし」とは、どのようなものだと思いますか
以下の中からあてはまるものを全てお選びください。

(N=530、SA)



オープンハウスのねこのためのうち紹介

(担当設計士:オープンハウス・ディベロップメント 大野七海)



■「飼い主とねこのしあわせな住環境に関する取り組み」について

首都圏の多くのエリアで戸建てビルダー NO.1を獲得しており、直接お客様と対峙する数やそこから拾えるお声、都心での圧倒的な供給数やデータを持つ当社が、「飼い主とねこにとって、にゃんとも幸せな住まいと暮らしを応援する」べく、ペットの痛みをAIで判定する「CatsMe!」を開発・運営するPetTech企業である株式会社 Carelogy、「猫カフェMOCHA」を運営し、ねこの室内飼育に関して専門的知識をもつリポット株式会社、「動物のいたみ」を研究・調査している帝京科学大学 生命環境学部 アニマルサイエンス学科 岩花倫生教授と共同で行います。

各パートナーがそれぞれが持つ知見を活かして中長期にわたりねこと住環境に関する取り組みや実態調査を協力して行うことでシナジーを発揮し、ねこと飼い主のしあわせな住環境の実現に貢献します。

■ 第一弾「ねこの健康と住環境に関する調査」について

株式会社 Carelogyの提供するねこの痛みをAIで診断するサービス「CatsMe!」を活用して行います。ユーザーに、特別に設計された住環境に関する項目にお答えいただくことで、どのような住環境だとねこが痛みや体調不良を起こしやすいのかを分析します。本実態調査ではリポット株式会社に調査の面でもご協力いただけることになりました。



【実態調査概要】

調査名 : 「ねこの健康と住環境に関する調査」

実施期間 : 2024年 11月22日(金)～12月31日(火)

対象者 : ねこを室内飼育している方

募集人数 : 制限なし

調査参加方法 : Webサービス「CatsMe!」を使用し、ねこの痛みの有無を判定

※詳細は取り組みのリリースをご参照ください

https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000654_000024241.html

■ 株式会社オープンハウスグループについて

株式会社オープンハウス及び関係各社は、2022年1月より、株式会社オープンハウスグループを純粋持株会社とする持株会社体制に移行いたしました。グループの事業は、戸建関連事業、マンション事業、収益不動産事業、アメリカ不動産事業を中心に、住まいや暮らしに関連する各種サービスを展開し、地域につきましても、創業の首都圏に加え、名古屋圏、関西圏、福岡圏へと拡大、更に近年は、地域共創のための活動や、環境保全活動にも力をいれています。1997年の創業以来の主要事業である戸建事業では、土地の仕入から、建築、販売まで製販一体の体制を整え、便利な立地かつ手の届きやすい価格の住まいを提供しております。共働き世帯の増加により求められる職住近接した立地、多様化する働き方の中で新しいニーズに応える企画等、グループならではの連携をとった取組を進めてまいりました。これからも、当社グループは、より多くのお客様に選んでいただける住まいのご提供に努めてまいります。

株式会社オープンハウスグループWeb サイト URL : <https://openhouse-group.co.jp/>

株式会社オープンハウス・ディベロップメントWeb サイト URL : <https://ohd.openhouse-group.com/>

株式会社オープンハウスWeb サイト URL : <https://oh.openhouse-group.com/>

< 企業概要 >

商号 株式会社オープンハウスグループ

本社所在地 〒100-7020 東京都千代田区丸の内2-7-2 JPタワー20階(総合受付)・21階

創業 1997年 9月

代表者 代表取締役社長 荒井 正昭

資本金 201億5,690 万円

従業員数(連結)6,107人(2024年9月期末)

< 本件に関するメディア関係者様からのお問い合わせ >

株式会社オープンハウスグループ 広報グループ(山岡)

TEL(部直通) : 03-6213-0783 / MAIL : pr@openhouse-group.com